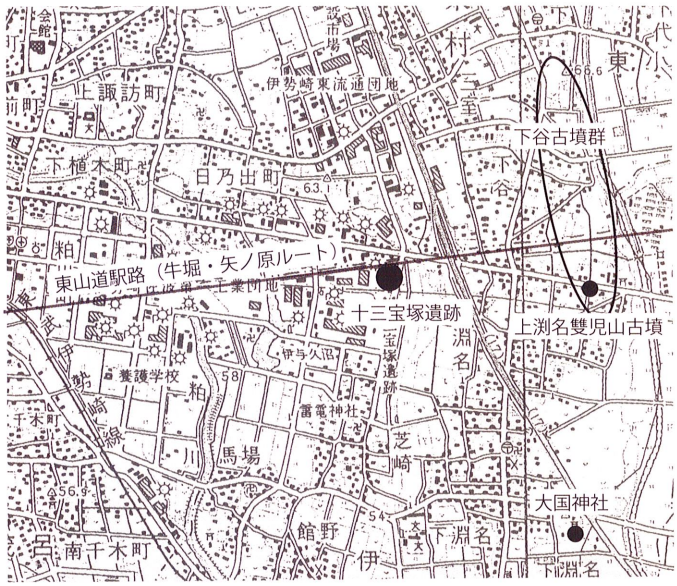
国指定史跡

十三宝塚遺跡

指定年月日：昭和63年1月11日　所在地：伊勢崎市境伊与久

お問い合わせ
伊勢崎市教育委員会　文化財保護課
〒372-0036　伊勢崎市茂呂南町5097-2
電話　0270-75-6672　Fax　0270-75-6673
E-mail：bunkazai@city.isesaki.lg.jp

十三宝塚遺跡は、昭和48年～51年にかけて、伊勢崎佐波第一工業団地造成に先立ち、発掘調査が行われ、みつかった遺跡です。調査では基壇建物や掘立柱建物などが数多く確認され、当時は佐位郡の役所ではないかと考えられていました。しかし、建物配置や仏教的な遺物が数多く出土していることから奈良時代の寺院跡と考えられるようになりました。また、中心伽藍の東から北にかけては集落や規則的に建てられた掘立柱建物なども検出されており、寺院を支えたムラと考えられています。



遺跡位置図

十三宝塚遺跡 寺院全景

東山道駅路（牛堀・矢ノ原ルート）

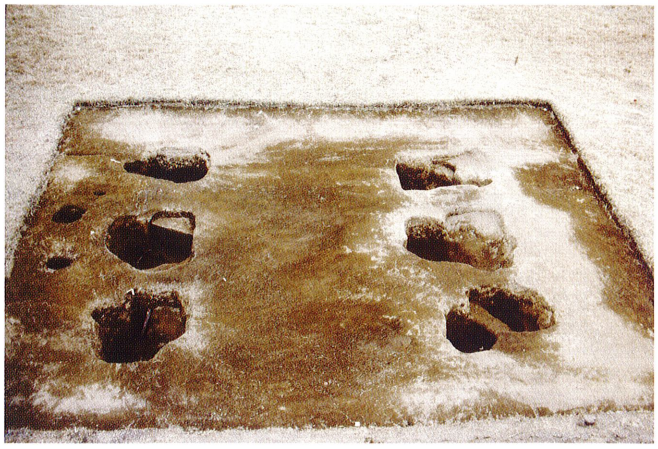
古代の日本には五畿七道という制度があり、全国は道という大きな単位で分割されていました。上野国（今の群馬県）は、近江、美濃、信濃、下野、陸奥とともに東山道に属しており、都からこれらの国々を通過し、陸奥にむかう幹線道路が東山道駅路と呼ばれる道路です。

上野国では、駅路のルートが2回、変更されていたことがわかっており、牛堀・矢ノ原ルートが最も古いルートです。

史跡周辺は市内でも遺跡が密集する地域の1つです。遺跡の北東1.5kmの早川左岸地域には下谷古墳群が広がり、南端には前方後円墳である上渕名雙児山古墳が所在しています。その渕名台地上には式内社である大国神社が鎮座し、周辺には古代の集落が広がっています。

史跡の北には古代の幹線道路である東山道駅路も確認されており、駅路の南側溝が史跡の北限を示しています。しかし、寺院が造られた頃、駅路は別ルートに変更され、その北側溝は牛堀と呼ばれる灌漑用水路に姿をかえています。

仏堂跡（中央の高まりが基壇です）



南門跡（掘立柱建物）

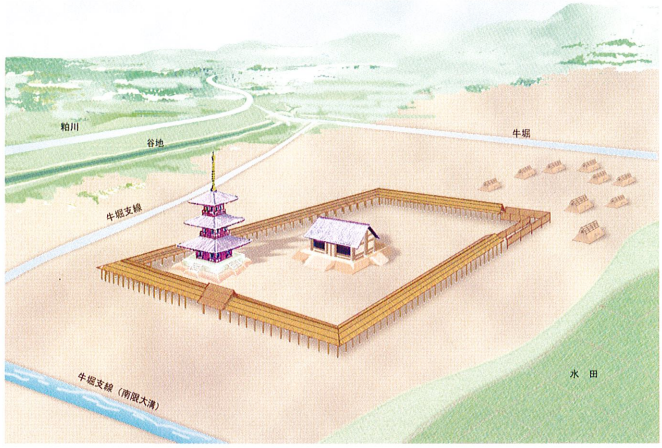
寺院では掘立柱による回廊状の遺構で囲まれた中に、仏堂、塔と考えられる基壇建物がみつかっています。この仏教空間からは仏像の破片や奈良三彩が多数、みつかっています。また、主要建物中心からは屋根瓦もみつかっています。中には上野国分寺と同笵のものや、佐位郡内の郷名を記した文字瓦もみつかっていることから、上野国分寺が建立された8世紀前半に寺院が造られたことが分かります。

国分寺造営には各国の郡司層が協力したと言われており、同笵の瓦の存在から、上野国分寺造営に協力した佐位郡司が十三宝塚遺跡の寺院建立にも大きく関わっていたと考えられます。

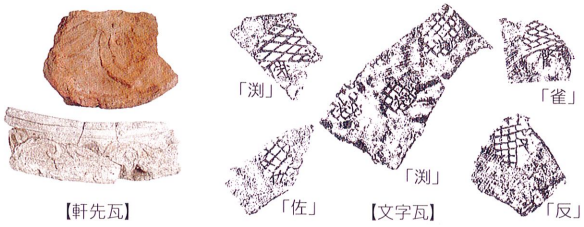
741年に全国に国分寺を造れとの命が出されました。しかし、国分寺の造営は思うように進みませんでした。そこで政府は各国の国司だけでなく郡司たちにも協力を要請しました。

でも郡司はただで協力したわけじゃないんです。官位をもらったり、国分寺瓦の使用を許可されたりいいこともたくさんあったんです！

佐位郡司は国分寺造営に協力したから、十三宝塚遺跡のような立派なお寺を造ることができたんだね。



十三宝塚遺跡伽藍想像図



十三宝塚遺跡出土瓦
（すべて上野国分寺でも出土している瓦です）

奈良三彩は唐三彩を日本で模倣して造った陶器です。当時非常に貴重品で、地方では寺院や役所を中心に出土しています。このように寺院跡からは数多くの仏教関連遺物がみつかっています。

十三宝塚遺跡出土仏教関連遺物

郡内には郡役所である佐位郡正倉跡の近隣に上植木廃寺が存在し、郡の寺としての機能を持っていたと考えられています。十三宝塚遺跡の寺院はこれよりは若干、格が落ちますが、郡司である檜前氏によって建立されたと考えられ、同氏の氏寺（私的な寺）であった可能性が指摘できます。